

こんなとき、どうしよう!!に答えます

年末年始は普段と違う行動や食生活をするが増えるため、思いもよらぬことが起きる場合があります。そこで、突然の事態に焦って判断を誤りがちな事例を紹介します。あってはならないけど、もし起きてしまったときにはぜひ参考にしてください。

お餅が喉に詰まった!

意識があれば、自分で咳をさせ吐き出させましょう。周囲の人は、背中(肩甲骨の間)を強く連続して叩いてください。同時に、119番通報をして救急車を呼びましょう。

注:餅は小さく切って食べやすい大きさにしましょう。先にお茶や汁物を飲んで、喉を潤しておきましょう。急いで飲み込まず、ゆっくりと飲んでから飲み込みましょう。



子ども同士でごっつん! 鼻血が出た!

楽な姿勢で安静にさせ、下を向いて親指と人差し指で鼻をつまみましょう。口に溜まった血は飲み込まず、吐き出してください。いつまでも鼻血が続くようなら、医療機関で診察を受けましょう。

注:上を向く、ティッシュを詰める、首の後ろを叩くのは誤りです。鼻血は止まりません。



お鍋が体にくっついて! お湯が体にくっついて! やけどした!

水道水で十分に痛みが取れるまで冷やしましょう。服の上からやけどした場合は、すぐに服を脱ぐことをせず、服の上から水を掛けて冷やしましょう。その際に冷やしすぎによる低体温に注意してください。湯たんぽ・こたつ・電気カーペットなどの低温でも長時間皮膚がさらされると、やけどが起こる場合があります。

注:慌てて服を脱がせて、その下にできた水膨れを破らないようにするために、服の上から水を掛けましょう。



目を離した隙に! 天ぷら鍋から火が!

消火器がなければ、ぬらしてかきよけたらいい。バスタオルで鍋の手前から覆って消火しましょう。火が天井まで届いてしまう前に、家の外へ避難してください。

注:消火のために水を掛けないようにしましょう。また、消火器を直接火元に投げても火は消えません。



さらに... こんなときにご注意!

間違えて119番に電話してしまった! どうしよう...切っていいよね?

決して切らずに、通信指令員に「間違えました」と必ず伝えてください。間違いが確認できない場合、消防隊などを出動させます。

年末年始に診てもらえる病院はどこ? 119番にかけたら教えてくれるかな?

「119番」は問い合わせ窓口ではありません。問い合わせは救急医療NET HIROSHIMAもしくは☎42-0931(安芸高田市消防本部)へ問い合わせてください。

※「119番」は緊急通報専用回線で回線数に限りがあります。問い合わせ電話のために、本当に命に関わる通報が受信できないこともあります。ご理解とご協力をお願いします。

救急医療NET HIROSHIMA(広島県のための医療機関・医療情報検索サイト)▶



家族の体調が悪い...救急車を呼ぶべき?

救急車を呼ぶべきか迷ったら、救急相談センター#7119に連絡してください。看護師などが24時間体制で病気やけがの症状を把握し、緊急性や応急手当の方法、適切な医療機関などを電話でアドバイスします。救急車が必要と判断されれば、センターが救急車を要請します。子どもの場合は、子どもの救急電話相談#8000へ! ※相談無料(通話料は利用者負担)

安芸高田市消防本部・安芸高田消防署 ☎42-0931・お太助フォン 42-3952 ☎47-1191



安芸高田 歴史紀行

あきたがた
れきしきこう



安芸高田市歴史民俗博物館 学芸員 古川 恵子

シリーズ
「博物館コレクション」
第27回

暖房具

年が明けさらに寒くなる今月は、歴史民俗博物館で展示している暖房具をいくつか紹介します。懐かしいと感じる方もいるのではないのでしょうか。エアコンやファンヒーター、ストーブ、電気毛布、あったかインナーや電熱ジャケットなど、暖かい物であふれている現代でも寒さがこたえる冬ですが、昔はどのように乗り切っていたのでしょうか。

いろり(ゆるい)



歴史民俗博物館第2展示室いろりの間

台所に作られ、薪や炭を燃やして、炊事や暖房、照明、乾燥のために年中使用されました。

火鉢



直径 38.5cm 高さ 28.0cm

陶製の火鉢。灰を入れてその上に炭を置き、手を温めました。暖房以外にも、五徳を置きその上に鉄瓶や鍋を置いたりもしました。

置炬燵(櫓炬燵)



37.8×37.5×30.3cm

中の陶器の容器に炭を入れ、櫓に布団を掛けて温まりました。

陶製湯たんぽ



長さ 27.8cm

陶製の湯たんぽは遅くとも江戸時代にはあったようです。展示のものは、お湯を注ぐ口にはめる栓が欠失しています。大正から昭和にかけてブリキ製も登場しました。

電気行火

「ナショナル電気コタツ」



16.5×24.0×15.8cm

1955年以降に販売されたと考えられます。寝る時に布団に入れて使用しました。

電気炬燵

「ナショナルホームコタツ小型」



24.8×24.8×23.8cm

1955年以降に販売されたと考えられます。櫓に布団を掛けて温まりました。